



ふくおか [Good] 農業人100
 主な農産物 / ミカン、高菜、米

松尾一則 さん (40歳) (営農地 / みやま市山川町)

効率的な農業経営を目指す!

《就農のきっかけ》

勉強するうちに
 ミカンのことが好きになった。

もともと実家がミカン農家だった松尾さん。地元の農業高校を卒業後、静岡県興津にある果樹研究所の農業技術研修生としてミカン栽培について2年間勉強しました。この研修期間中には、ミカン農家を目指すという同じ志を持った多くの仲間と出会いました。この出会いが、松尾さんの農業に対する考え方を変えたといいます。

「農業高校時代はいずれ農業を継がないといけな、と漠然と考えていました。しかし、試験場の友人たちとミカン栽培や経営について話したり、ミカンの勉強を突き詰めていくうちに、ミカンに関わるのが好きになりました。」と語ってくれた松尾さん。研修では毎日のようにミカン園地で作業を行い、体で技術を覚えたといいます。

卒業後はその技術を実際に活かすべく、実家の農業を継ぎました。就農の際には、将来の経営を見越して優良な園地を集約したいと考え、国の制度資金を活用し、新たに土地を購入し、ミカン園地の拡大を図りました。

《これまでの過程》

連年安定生産を目指して。
 様々な技術対策に挑戦。

就農当初は、ミカンの樹が思うようにならないことが多かったといいます。また、就農の当時に植栽した園地が成園化するまでは、経営的に苦しいときもあったそうです。

そのような中、同世代のミカン作りの仲間の存在は大きかったといいます。部会青年部に所属し、先進地視察や日々の情報交換を行ってきた松尾さん。松尾さんにとっては、よきライバル、よき友人として共に切磋琢磨できる仲間がいたことが大切なポイントだったようです。また先輩農家からの色々なアドバイスや情報も就農当時の助けになったといいます。

さらに、隔年結果しやすいミカンを毎年安定して生産できるよう、



プロフィール

- 家族構成 / 本人、母、妻、子ども3人
- 営農年数 / 21年
- 従業員数 / 時期により雇用
- 耕地面積 / ミカン2.3ha、高菜0.7ha、米1.2ha
- 販路 / JA共販

様々な技術に積極的に取り組み、今では高品質なミカンを生産できるようになりました。その高い技術は、青年部だけでなく部会の生産者大会でも取り上げられ、地域の生産者にも波及しており、若い力で産地を盛り上げています。

《これからの展望》

ミカン園地の集約化と省力化を図り、
 楽しめる農業がしたい。

大規模なミカン経営にとって、作業の省力化を図ることは重要なポイントです。「現在栽培している園地の中には、作業性の悪い園地もあります。今後はリタイアされた方の園地を活用してもらい、作業しやすい園地を集約し効率的な農業経営を行いたい。」という思いを持つ松尾さんは、今後のミカン産地を担っていく人物の一人となることでしょう。



Good 成功の
 ためのポイント

成功には自分の考えをもつことが重要です。自分で問題点を探し、解決策を考え、実践してみることが大切だと思います。